令和元年度　佐賀県立唐津東高等学校　学校評価結果

1　学校教育目標	2　本年度の重点目標
「自主自律」の精神を培い、知・徳・体の調和のとれた、地域や国際社会の発展に貢献する、高い知性と志を備えた、心身ともに逞しい生徒を育成する。	①生徒一人ひとりの学力分析と中高6年間を見通した計画的な進路指導により、高いレベルでの確かな学力の定着と進路意識の高揚を図り、生徒の進路希望の実現を目指す。 ②心身ともに健やかで、チャレンジ精神のある骨太の生徒を育成するため、中高6年間の発達段階に応じた授業、学校行事、生徒会活動及び部活動等を実践する。 ③教職員の教育力の向上を図り、ICT機器、特に学習用PCを効果的に活用した教育実践を一層推進するとともに、効率的な学校運営による組織力の強化を図る。 ④保護者や地域社会の信頼に応え、本校教育の取り組みへの理解を促進するため、広報活動や教育活動の情報発信を活発化する。

達成度　A:ほぼ達成できた
B:概ね達成できた
C:やや不十分である

3　目標・評価

①生徒一人ひとりの学力分析と中高6年間を見通した計画的な進路指導により、高いレベルでの確かな学力の定着と進路意識の高揚を図り、生徒の進路希望の実現を目指す。

領域	評価項目	評価の観点 （具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題（左記の理由）	具体的な改善策・向上策
教育活動	●学力の向上	①基礎学力の定着 ②進路実現を見据えた学力の向上	○家庭学習時間を十分に確保する。3年生は平日4時間以上、1・2年生は平日3時間以上とする。 ○授業の充実を図り、国公立大個別学力試験に対応できる学力を養成する。 ○難関大学受験者の掘り起こしに努め、九州大学以上の受験者数60名以上を目指す。	○授業時数の確保により、正課授業を充実させる。 ○ICT利活用教材「Classi」を活用して、生徒の学習時間や生活状況を把握する。また、「面談週間」を設定し、生徒の実態把握に努めるとともに学習に対する意識の高揚を図る。 ○様々な進路希望に対応した教育課程編成を行うとともに、各生徒の状況に注意を配りながら、個に応じた指導を行う。	B	○昨年に引き続き、行事の精選と事務作業の効率化を積極的に行い、個々の負担を減らす時間割作成ができた。また、積極的に変更を取りまとめることで、授業時間の確保に努めた。 ○生徒の家庭学習時間はやや減少傾向にあるようだ。スマホ、SNS関係に時間と意識を奪われている生徒も散見される。 ○難関大志望の意識はあるのだが、実際の受験者は40名（医薬含む）で、目標とした成績まで達成できていない生徒が多い状況である。	○各学年主体で定期的にICT利活用教材「Classi」活用により学習時間調査を実施することによって、生徒の生活状況を把握する。 ○面談等によって生徒の実態把握に努めるとともに、学年集会や全校集会を活用して生徒の意識高揚を図る。 ○難関大合格のためには、低学年からの意識付けを含めた指導が必要である。現行の難関大対策をさらに充実させる必要がある。
	●志を高める教育	①進路実現のための学力の保障 ②進路意識の啓発と高揚 ③キャリア教育の充実	○国公立大学の合格者数を170名以上とする。 ○東京大学・京都大学の合格者数を併せて8名以上、九州大学の合格者数を30名以上とする。 ○自己の適性を把握し、職業や学問を研究し、自己の能力を最大限に活かそうとする高い志を持った生徒を育てる。 ○「総合的な学習、探究の時間」等を利用して、社会に対して主体的に関わる意識を持たせ、自ら考える能力を養い、新テストに対応できる学力を培う授業実践を研究していく。 ○教職員の教科指導力や進路指導力を向上させ、志を高める教育を推進していく。	○進路検討会や学力分析会を行い、進路・学年・教科との連携を図る。 ○「進路だより」、「進路のしおり」を発行し、進路情報の提供に努め、生徒のチャレンジを後押しするとともに、高い志を持った生徒を育てる。 ○「大学出前講座」、「九州大学訪問」、「東京研修」等を開催し、進路意識を啓発する。 ○総合的な学習の時間、総合的な探究の時間を中心に1年次から主体的な学びを促し、思考力・判断力を培う。 ○各教育機関主催の研修会（大学入試問題研究会や進路指導研究会等）への参加を通して、教科の指導力向上と的確な進路情報の掌握に努める。	B	○国公立大学合格者は京都大学2名、九州大学11名など、合計で138名（すべて現役）。目標には到達しなかったが、よく健闘した。 ○進路検討会について日程の変更を行い、より充実した形式となった。 ○進路便りに加え、「Classi」を利用することで、よりリアルタイムに生徒への連絡ができた。また、「進路のしおり」を例年よりも早く発行することができた。 ○「大学出前講座」「東京研修」「九大訪問」への参加を通して進路を研究する機会を設けることができた。 ○「総合的な学習の時間」において「わくわく総学」と「エナジード」を実施。生徒自らが課題を専門の方の助言を踏まえて、調べ実施し、主体的な学びの実践への端緒に就いた。 ○大学入試問題研究会や民間教育機関の教員向け研修に多くの職員が参加した。	○「総合的な学習の時間」における「わくわく総学」「エナジード」から「進路学習」へつながる連関のあり方を研究する。新高1生が新テスト初年度の生徒であり、ポートフォリオへの蓄積も併せて実践する。 ○学年ごとの進路検討会や学力分析会で具体的案まで見通すようにし、各クラスの進路指導や各教科の授業実践に反映しやすいようにする。 ○3年目を迎えた「東京研修」については参加者の満足度は非常に高かった。今後、内容をさらに精査して充実を図っていきたい。

②心身ともに健やかで、チャレンジ精神のある骨太の生徒を育成するため、中高6年間の発達段階に応じた授業、学校行事、生徒会活動及び部活動等を実践する。

領域	評価項目	評価の観点 （具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策		成果と課題（左記の理由）	具体的な改善策・向上策
教育活動	○生徒会活動	①積極的な学校行事、生徒会行事への参加 ②学校生活に対する主体的な態度の育成	○部活動の加入率を85%以上にする。 ○元気で爽やかな挨拶ができる学校を作っていく。 ○生徒が主体的に取り組む鶴城祭を目指す。 ○ボランティア活動を通じて地域社会に貢献し、地域に愛される学校にする。	○講話や部活動紹介などで部活動の魅力を伝える。HPを通じて部活動の活躍をPRする。 ○「あいさつ運動」などを通じて、挨拶をすることが自然であると感じる雰囲気を醸成する。 ○新しい取り組みを生徒自ら考案することができるように時間ときっかけを与える。 ○各種ボランティア行事の連絡・広報を迅速かつ確実に行う。ボランティア活動の意義を伝える。	B	○年度当初の部員数調査では部活動加入率が91%となり、昨年度より3%増加した。多くの生徒が部活動に積極的に参加している。 ○学年で比較すると2,3年生の挨拶の意識が高い。1年生については率先した挨拶が定着していない。 ○鶴城祭の体育大会では、生徒からの意見を参考に、生徒会総務役員考案による新種目を行うことができた。 ○ボランティア活動に関する広報活動は例年通り行うことができた。8月の集中豪雨による災害のボランティアへ個人、または部活動単位で参加する生徒もいた。	○年度当初の部活動加入率は高いが、特に1年生において中途退部者も出ているようだ。部活動紹介を通して、部活動を継続することの意義について伝える必要がある。 ○鶴城祭の文化祭を充実させたい。特に1日目の体育館行事については、部活動単位だけでなく、中高問わず、部活動以外の文化の活動にも目を向けて幅広い発表の場としたい。 ○8月の集中豪雨による災害のボランティアでは、多くの生徒が自らの意思で参加したことを知り、感心した。生徒会のボランティア委員会の活動を充実させ、全校生徒のボランティア活動に対する意識をさらに高めたい。
	●健康・体つくり	①運動習慣の改善や定着化 ②望ましい食習慣と自己管理能力の育成 ③好ましい睡眠リズムの定着化	○規則正しい生活を保てるよう、家庭の協力を得ながら自ら考え、行動できるよう手助けをする。	○中学との連携を深め、継続的な指導を図る。 ○家庭科・保健の授業で正しい知識を身に付け、実行できる能力を高める。 ○保護者会などで呼びかけ、家庭での生活の見直しをしてもらい、生徒自身が行動するよう見守ってもらう。	A	○インフルエンザの流行期には、アルコール消毒液を随所に設置し、事前に予防の呼びかけを行ったため数名しか出なかった。特に、インフルエンザの生徒が出た部活動については顧問を通じ早急に対応したため、それ以上広がることはなかった。 ○熱中症予防・ストレッチ研修会を実施し、熱中症やけがの予防について意識づけができた。参加した生徒にも好評であった。	○インフルエンザの流行期には、症状が軽くても病院を受診するように、保健だよりや朝礼での呼びかけをする。早期発見に努め、マスクの着用を推奨するなど、感染拡大を予防する。 ○熱中症予防やストレッチ研修会を実施し、運動時の熱中症やけがの予防について、生徒や職員の意識を高める。
	●いじめの問題への対応	①いじめのない学校環境づくり	○いじめを許さない雰囲気づくり、人権意識の高揚と生命尊厳を推進し、いじめの件数0を目指す。	○学年、全校集会等で呼びかけ、生徒に対して「絶対にいじめを許さない態度」を身につけさせる。また、家庭や地域においても、意識の共有を図る。 ○毎学期アンケート調査を実施することで、生徒の実態を把握し、いじめの早期発見を心掛ける。 ○情報モラル教育をさらに充実させ、情報社会における正しい考え方や態度を身につけさせる。	B	○毎学期のアンケート調査の実施により、生徒の実態把握に努めた。個人の悩み等を早期に把握し、その後の教育相談につなげたことで、安全で安心した学校環境づくりに貢献できた。 ○今年度はいじめ事案が3件発生した。学年と関係校務分掌が連携しながら、いじめの未然防止に取り組んでいく必要がある。 ○今年度も講師を招き、情報モラル教育講演会を実施した。ネット上で情報を発信する際は、自分はもちろんのこと、他者への影響を考える重要性と責任を学んだ。	○学校が「安全で、安心して学べる場」であるために、いじめを絶対に許さない雰囲気づくりを教員、生徒の共通認識としながら、指導を継続していく。 ○生徒指導というより、教育相談に重きを置くことが必要となってきた。問題行動の背景には、必ず生徒の中に不安や不満がある。生徒に安心感を与えるよう家庭状況・友好関係など生徒に対する深い理解を進めていく。
	●心の教育	①生命や人権を尊重する意識の高揚 ②ボランティア活動の推進とゴミの持ち帰りの徹底	○集会や、講演会などを通じ生命尊重・人権意識の高揚を行う。 ○教育相談連絡会や特別支援教育校内委員会を定期的に実施し、職員の共通理解を図る。 ○清掃ボランティア活動を通して、奉仕の精神を養う。 ○清掃活動を充実し、ゴミの持ち帰りを徹底させる。	○交通マナーや挨拶の励行で、品位、品格のある態度を身につけさせる。 ○支援を要する生徒への素早い対応を行う。 ○校内研修会を実施し、支援への知識を深める。 ○校内美化に努め、日々の清掃活動を自主的に行う態度を身につけさせる。	A	○本年度は授業によって保健室登校（不登校）の生徒が若干名いたが、早期対応ができていたため、長期化せず教室復帰できたり、進路変更等がスムーズにできた。 ○メンタルサポート講演会も実施する必要がなかった。 ○環境ボランティア活動が雨天のためできなかった。	○生徒をよく観察し、不登校になりそうな生徒を早期発見し対応する。 ○必要に応じてメンタルサポート講演会を実施し、スクールカウンセラーに子どもの理解と保護者としての支援のあり方をアドバイスしてもらう。 ○生徒会と連携し、校内美化への意識を高める。
	○生徒指導	①ルールやマナーを守ることの徹底	○規範意識の高揚と生徒心得の周知・徹底を行い、生徒指導措置件数0を目指す。	○ホームルームや集会等でルールやマナーを守ることについての啓発を行う。 ○長期休業明けの各学期当初に集会を行い、服装・頭髪検査を実施する。	B	○今年度の生徒指導措置件数は2件と昨年度から生徒指導措置件数は減少したものの、規範意識の低さから安易で軽率な行動につながる事案も発生した。服装頭髪については、学年及び担任の継続した指導により落ち着いている。	○ルールに対する規範意識を高めるために学年と連携し、全校集会や学年集会等を活用しながら生徒への周知徹底を図る。 ○インターネットの利用については、生徒が主体となったルール作りを軸として、さらに情報モラル教育の充実を図る。
	○読書指導	①読書習慣の確立 ②読書の質の向上	○朝読書を通年で実施し、内容を充実させる。 ○図書貸し出し冊数、一人当たり年間5．0冊以上を目指す。	○推薦図書を示し、朝の読書の質の向上を図る。 ○図書館内の蔵書の配置等を工夫し、利用しやすい環境を作る。 ○生徒が主体的に活動できる場を作り、図書館の活性化につなげる。 ○図書館だより・新刊紹介などを発行し、情報発信を積極的に行う。	B	○講演会で推薦された本や、生徒同士が推薦し合った本などを集めて展示したところ、借り出した生徒も多かったが、12月末時点では貸し出し冊数は一人3.0冊で、目標には及んでいない。 ○図書委員に考えさせ、時期に応じた企画展示を行うことができた。また、鶴城ビブリオバトルの企画運営についても生徒が積極的に取り組み、活性化につながった。 ○新刊紹介は毎月行ったが、図書館だよりの発行回数が少なかった。	○朝読書については、学年や教科と連携して推薦図書を読む時期を設定することで、質を高める。 ○生徒図書委員会の活動をより活発にし、生徒が利用しやすい図書館の環境作りや、生徒主体で行事の企画に取り組む。

③教職員の教育力の向上を図り、ICT機器、特に学習用PCを効果的に活用した教育実践を一層推進するとともに、効率的な学校運営による組織力の強化を図る。

領域	評価項目	評価の観点 （具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策		成果と課題（左記の理由）	具体的な改善策・向上策
教育活動	○教育の質の向上に向けたICT利活用教育の実施	①ICT利活用教育技術の向上 ②ICT利活用教育教材の研究 ③ICT機器利用の促進	○教育情報化推進リーダーを中心とした研修を実施する。 ○ICT活用の技術習得のための研修会への参加促進。 ○授業におけるICT機器の利用促進。	○全体研修（基本スキル・セキュリティ・先進校の取り組み紹介）を行う。 ○教育センター研修等への積極的な参加を促す。 ○特に教師間授業参観週間ではICT機器利用の広報をする。	B	○情報セキュリティ監査の結果に基づき、本校での問題点を広報し、情報セキュリティに関する職員の意識を向上させることができた。 ○教師間授業参観週間や学校公開日などにICT機器の利活用についての広報ができた。	○授業やアンケート調査など、体系的に利活用し、作業効率化を進める。 ○研修会で得た知識や技術を積極的に取り入れた教育活動を行う。
学校運営	●業務改革・教職員の働き方改革の推進	校務等の効率化促進	○学校行事等、校務の精選を推進する。 ○業務改善のための工夫として、校内LAN、SEI-Netをさらに有効活用する。 ○自発的時間外勤務を削減する。	○各分掌・学年で、主催する行事・企画等について協議し、優先順位の低いものを見直す。 ○会議の資料、職員間の連絡事項、各分掌が作成した文書等を校務サーバに保存し、情報を共有することで、業務の効率化を図る。 ○部活動について、効果的かつ十分な休養日を設定する。	B	○クリーニングクラスマッチは、日々の掃除がきちんとできているので、今年度から廃止した。波戸岬少年自然の家での1年生宿泊研修は、同窓会館で行っても十分な成果が得られるので、今年度から同窓会館での研修に変更した。また、各種講演会の精選、考査期間中の会議の削減なども行った。 ○職員会議資料、毎週の時間割、考査時間割等のデータを職員にメール配信することで、印刷業務の負担軽減とペーパーレス化を図った。 ○時間外勤務は平均52時間32分／月（昨年度57時間9分／月）、100時間超は4.7人／月（昨年度5.8人／月）であった。部活動休養日は平均12.2日／月であった。	○今後も「行事検討委員会」を継続して行い、分掌や学年、中高で関連する行事を再考し、開催時期なども含めて検討を行い、効率化を図っていきたい。 ○今後も業務の効率化を図るために、校内LANや新教育情報システムを有効活用していきたい。 ○部活動の在り方については、外部指導者の活用などを含め、今後も検討していきたい。

④保護者や地域社会の信頼に応え、本校教育の取り組みへの理解を促進するため、広報活動や教育活動の情報発信を活発化する。

領域	評価項目	評価の観点 （具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策		成果と課題（左記の理由）	具体的な改善策・向上策
学校運営	○開かれた学校づくり	①広報活動の推進 ②公開授業等の推進	○学校広報誌「鶴翼」の効果的な発行 ○公開授業を各学期ごとに実施 ○国際交流事業の充実	○ホームページ更新の頻度を上げ、タイムリーな情報発信を行う。また学校広報誌「鶴翼」を月１回の発行と限定せず効果的なタイミングに発行し、保護者にも学校行事等に興味を持っていただくよう努める。 ○公開授業に参加しやすいように、土日開催とし、小中学校等、広く案内を出す。 ○国際交流の際のイベントの充実を図る。	B	○学校広報誌「鶴翼」や振興会新聞「鶴窓」により、保護者に学校行事等に興味を持っていただく一助にできた。また、ホームページも活用し、学校の様子を知らせることができた。 ○国際交流の際のイベントは、多くの生徒に参加してもらい、充実したものになった。また、生徒への説明会のやり方を工夫した。残念ながら、香港の政情不安のため中止になる事業があった。	○学校広報誌「鶴翼」については、年間計画を元に、さらに充実した内容にする。また、ホームページもより充実したものになるよう検討する。 ○生徒の国際交流の機会をさらに増やせるよう広報を図る。
	○学校経営方針	①重点目標の周知 ②職員の共通理解と実践	○学校経営ビジョンや重点目標を理解してもらうため保護者会総会や学年保護者会への出席率を70%以上とする。 ○中高一貫校の成果と課題を検証し充実を図る。	○学校広報誌「鶴翼」や学校ホームページ、振興会総会において、周知を図る。 ○成果と課題について検討会を実施し、指導法の深化と共有化を図る。	B	○振興会総会の出席率は、45.8%で委任状と合わせると93.6%であった。また、1，2学期の学校アンケートにより、本年度の本校の重点目標を保護者や、生徒に広報することができた。学年保護者会の出席率は、１年：63.0%　２年：60.8%　３年：83.9% であった。	○今後とも引き続き学校広報誌「鶴翼」や学校ホームページ、学校アンケート等、いろいろな形で周知を図っていく。

本年度の重点目標に含まれない共通評価項目

領域	評価項目	評価の観点 （具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策		成果と課題（左記の理由）	具体的な改善策・向上策
学校運営	○学校事務	①学習環境の改善 ②施設・整備の充実 ③県民満足度の向上	○予算の効率的な執行を図る。 ○安心・安全な学習環境の保持を目指す。 ○信頼される事務室を目指す	○各分掌からの予算要望に対するヒアリング、調整を行い効率的かつ教育効果の高い予算執行を行う。また、公用車の利用促進に努める。 ○定期的な施設の点検を行い、危険個所の発見、環境整備に努める。 ○窓口、電話対応等においては迅速に行う。担当者不在時にも対応ができるよう、事務室内で情報の共有を行う。	B	○効率的な予算執行により各分掌からの要望に対応することができた。公用車の利用促進についてはあまり変わらなかった。 ○危険箇所や施設の劣化等は先生方の協力もあり、早期に改修できた。 ○窓口、電話対応業務は丁寧な対応と内容の伝達ができた。担当不在時でも専門的な内容以外は対応できた。	○修理等での予算増が見込まれるため、修繕料の予算配分割合を増やす。金額の大きな補修関係は予算要求に乗せていく。公用車の利用促進についつは、再度呼びかけを行っていく。 ○校舎建設から10年以上経過し、施設・備品等の老朽化も見られる。生徒目線での施設等の点検を行い、危険箇所等の早期発見に努める。 ○標準的職務の明確化により、負担増が見込まれるため、これまで以上に業務効率化を目指す。効率化できる部分については積極的に提案できるような環境作りを行う。

●は共通評価項目、◎は共通評価項目のうち特定課題、○は独自評価項目

4　本年度のまとめ・次年度の取り組み

○生徒が主体的に学習し、自己の適性の発見と進路目標の達成につながるような授業を実践していく。また、ICTを有効に活用し、学力向上につながる教科指導の研究と実践に努めていく。

○生徒の進路希望実現のため、新テストに向けた進路情報の収集と共有、および推薦入試やAO入試にも対応できる指導体制を構築する。

○いじめ、不登校、学力不振や集団への不適応等について、生徒理解に努め、定期的な会議の中で情報の共有と対応策を具体的に考えていく。

○生徒の交通事故や怪我、熱中症による体調の急変、感染症など、生徒に関する危機管理について、特に迅速な対応について意識を高め、安全な学校環境作りに努める。

○SNSによる犯罪に巻き込まれないように、スマートフォンの使い方については、イレブンセブン運動なども推進し、家庭と連携しながら生徒の生活習慣の改善を図っていく。

○本校の中高一貫教育「19の方策」を実践するとともに、継続的な検証や見直しに取り組む。